

ビ

ー

だ

ま

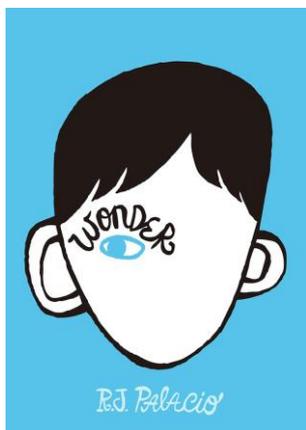
## ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2015年7月～12月に図書館に入った本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号  
電話 076-461-3200  
平成28年4月23日発行（年2回発行）

### ワンダー

R・J・パラシオ/作 中井はるの/訳 ほるぷ出版



オーガストは、生まれつき顔に障がいを持っている。そのせいで学校に行っていなかったが、10歳になったオーガストは、とうとう学校へ通うことになった。

校内見学の日、やはりクラスメートは、オーガストに心ない言葉をなげかける。けれども、そんなオーガストをさりげなくかばってくれたのが、ジャックだった。二人はすぐに仲良くなり、しだいに友だちも増えた。オーガストが顔のことを気にせずに学校を楽しみはじめていたある日、ジャックが陰口を言っているのを聞いてしまう。

## 川床にえくぼが三つ

にしがきようこ/著 小学館



中学2年の文音<sup>あやね</sup>は、地層の研究をしている叔母の楓子<sup>ふうこ</sup>に誘われ、幼なじみの華<sup>はな</sup>とインドネシアへ行くことになった。

ところが、現地に着いてすぐに体調を崩した文音をよそに、華はすぐに楓子や研究チームと打ち解けてしまった。おもしろくない文音は、華に張り合うように発掘調査を手伝い、思いもよらない大発見をする。しかしその出来事は、二人の友情に決定的な亀裂<sup>きれつ</sup>を生んでしまった。

## 白をつなぐ

まはら三桃/著 小学館

毎年1月に行われる、都道府県対抗男子駅伝では、中学生から社会人まで注目の選手が集められる。福岡代表の監督を務める熊沢は、良い選手がそろった今大会に期待していた。その合宿中に一通の封筒が見つかる。宛名もなく、中は白紙で差出人もわからない。本番前日、熊沢はそれを心になぞらえ、「明日はこの手紙のように真っ白な気持ちで走ってほしい」と選手たちを激励<sup>げきれい</sup>する。



## 赤の他人だったら、どんなによかったか。

吉野万理子/著 講談社



中学2年の風雅<sup>ふうが</sup>の住む藤ヶ崎市の隣で、通り魔による殺人未遂事件が起こった。同級生と事件をおもしろがっていた風雅だったが、母から犯人とは遠い親戚<sup>しんせき</sup>だと聞かされる。しかも、犯人の娘・聡子が同じクラスに転校してきてしまう。

聡子は学校で孤立し、いじめにあう。風雅は、彼女の力になりたいと考え、いとこの喜々<sup>きき</sup>を誘ってある計画を立てた。前編で風雅、後編で聡子、それぞれの物語が描かれる。

## 車夫 shafu

いとうみく/作 小峰書店



高校2年の秋、走の父は借金を残して失踪し、まもなく母もいなくなった。食べるものもお金もなく、途方に暮れる走の前に、陸上部のOB前平があらわれる。前平は、走に人力車を引く「車夫」の仕事をしてみないかと誘う。

言われるままに「力車屋」をたずねた走。そこではじめて人力車に乗った走は、ほかのどんな乗り物でも感じたことのない気持ちよさに感動する。

## おいぼれミック

バリ・ライ/著 岡本さゆり/訳 あすなる書房

ハーヴェイの隣の家に住んでいるおじいさんミックは、移民というだけでハーヴェイの一家を目の敵にしている。

ある日、ハーヴェイは不良に絡まれているミックを見つけ、思わず助けに入ってしまう。それでも、ミックは態度を改めることはなかった。しかし、2度目に助けたとき、ハーヴェイを見るミックの目が変わったことに気づく。それから、二人の間に不思議な友情が芽生えはじめた。



## 鏡の世界 石の肉体

コルネーリア・フンケ/著 浅見昇吾/訳 WAVE出版



12歳のジェイコブは、父の書斎で1枚の鏡を見つけた。消えた父の手がかりを求めて触れると、その鏡はスリルと冒険にあふれたおとぎ話の世界への扉に変わった。

それから12年の間、現実世界に弟を残し、ジェイコブは鏡の中の世界に入りびたった。ところが弟が誤まって鏡の世界に迷いこんでしまう。石に変化する呪いをかけられた弟を救うため、ジェイコブは危険な旅に出る。

## ぼくたちに翼があったころ

タミ・シエム＝トヴ/作 樋口範子/訳 岡本よしろう/画 福音館書店



待遇の悪い孤児院で暴行をうけたヤネクは、唯一のとりえだった足を悪くする。そんなとき、ヤネクは「孤児たちの家」でコルチャック先生と出会う。コルチャック先生は、ヤネクの本当の才能を見出してくれた。

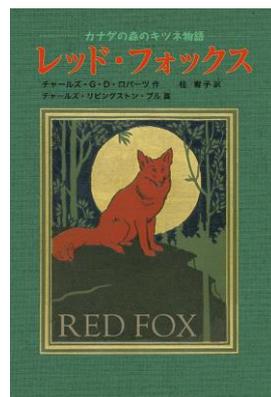
第二次世界大戦下、子どもの教育に一生をささげたヤヌシュ・コルチャックは、子どもたちとともに強制収容所で生涯を終えた。彼が設立した、実在の孤児院を舞台にした物語。

## レッド・フォックス カナダの森のキツネ物語

チャールズ・G.D. ロバーツ/作 桂宥子/訳 チャールズ・リビングストン・ブル/画 福音館書店

カナダの森に住むレッド・フォックスは、生まれながらに強く、賢い赤ギツネだった。母と自然から生き残り方を学んで自立し、好奇心と用心深さを絶妙に使い分けながら、森で生きる術を磨いていく。

しかし、時には人間の放った猟犬に追われることもある。そんな時は、跡を追ってくる犬たちに、わざと臭いを残しておびき寄せたり、臭いを隠したりして<sup>ほんろう</sup>翻弄する。



## すぎはらちうね 杉原千畝と命のビザ 自由への道 (絵本)

ケン・モチヅキ/作 ドム・リー/絵 中家多恵子/訳 汐文社



第2次世界大戦前夜、外交官としてリトアニアで働いていた杉原千畝の家を、何百というユダヤ人が取り囲んだ。彼らは、ナチス・ドイツの迫害から逃れるために、日本へ渡るビザ（入国許可証）を求めて来たのだ。

しかし、日本政府はビザの発給を認めなかった。悩んだ末に、千畝は命令に背き、ビザを書き始める。千畝が発給した手書きのビザは、何千人もの命を救った。

【 執筆：崎川（大沢野図書館） 】